

ふるさと歴史散歩 246

～松前史談会レポート～

国宝大宝寺と周辺めぐり II

次に、朝日八幡神社の隣にある山内神社に向かう。山内神社は、享保大飢饉の時起こった「松山騒動」の中心人物、山内与右衛門を祀っている神社である。山内与右衛門は、土佐藩主山内家の一族であるが若くして松山藩士となり、忠節・潔白に励み正徳4(1714)年に32歳で目付役に任ぜられたほどの英才であった。

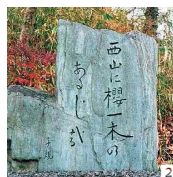
享保17(1732)年の享保の大飢饉で、松山藩に約3,500人の餓死者が出たとき、5代松山藩主松平定英は、藩士の中で一番誠実で信頼のおける目付役の山内与右衛門に松山へ帰って被害を調査するように命じた。与右衛門は藩主に詳しく報告したものの、その後松平定英は幕府から内政不行き届きのかで謹慎を命じられたこともあり、心労の末急逝した。与右衛門は、定英の後を継いだ定高の家老奥平久兵衛一派の陰謀により、その報告が偽りであったとされ、役儀を解かれた上で閉門となり、味酒村長久寺(現高砂町)で割腹を強いられ、自害した。しかし、その後寛保元(1741)年、与右衛門の罪は冤罪であつ

たことが判明し名誉が回復された。なお、長久寺はその後、御幸1丁目に移転。そこに山内与右衛門の墓がある。

文化11(1814)年、第11代藩主松平定通が、山内与右衛門の忠誠をたたえて神社を建立した。昭和20年に戦災で焼失したが平成3年4月に再建された。

参加者は、享保の大飢饉で有名な郷土の偉人「義農作兵衛」に想いをはせつつ神社を後にした。次号に続く。(宮内 祐記)

【参考文献】『俳句の里 松山』



❶ 山内神社 享保の大飢饉で江戸より遣わされた与衛門は、領内を隈なく調査しその対策と領民の救済を報告した。藩主定英が急逝すると、家老達は保身から与衛門に罪を被せ割腹させた。文化11年、藩主定通公がその忠義を誉め、神社を建立し祀った。毎年4月23日に大祭がある

❷ 正岡子規の句碑 西山に桜一木のあるじ哉 (子規) この句は、明治25(1892)年に「山内神社」と題して詠んだもので、桜のように散った山内与右衛門を桜一木に託したという。碑石は西条の青石で昭和44年建立

松前史談会(麻生) ☎ 090-4472-8136

community learning center 公民館 だより

東公民館

毎月順番に活動内容をお届け!

親子アート教室



㊦どの作品も上手にできました
㊧今年のハロウィンは自分たちの作ったお面でパーティを

【開館時間】 9時～22時 【休館日】 12月28日～1月4日
◆東公民館 神崎 210 ☎ 984-1159 FAX 984-1457
◆西公民館 北黒田 966-2 ☎ 984-5313 FAX 984-5313
◆北公民館 昌農内 456-1 ☎ 984-7529 FAX 984-9398

7月26日から新田高校美術講師の遠藤貢治先生を迎え、未就学児を対象とした親子アート教室が始まりました。

初回は、「絵具であそぼう」と題し、ローラーで紙に絵の具を塗って色紙を作ったり、鮮やかな色合いの素敵なうちわを作ったりしました。第2回目は、初回に作成した色紙をちぎって「あおむし」を、第3回目は「ハロウィンのお面」を作りました。

参加した親子8組17人は、和やかな雰囲気の中で、楽しく取り組んでいました。完成した作品は、次回の教室まで1階ロビーに展示しています。東公民館にお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

ふるさと ライブラリー

◆開館時間 9時30分～19時
◆問い合わせ ☎ 985-4140
FAX 985-1386
<https://www.i-masaki.jp/library/>
◆11月の休館 28日㊦

おはなし会
22日㊦11時～
文化センター2階
ふるさと学習室

◆新着本 紹介

毎週新しい本を入荷し、随時、新着本コーナーに展示しています。貸し出し状況、予約状況はお問い合わせください。

▶いまだ悪戦苦闘中
関中
垣谷美雨・著
双葉社



ベストセラーとなった初のエッセイ集『行きつ戻りつ死ぬまで思案中』の続編。日々の生活で感じる不安や苛立ちや疑問を、飾らぬ言葉で語る。前作よりもパワーアップした痛快エッセイ。

▶天上の火焰
遠田潤子・著
集英社



おおらかで孫に優しい人間国宝の祖父と、息子に無関心な名手の父。物心つく前に母を亡くした城は、陽と陰のような二人の間で育ち悩み苦しんでいた。備前焼窯元一家の再生を描いた物語。

▶小泉八雲とセツ その言葉と人生
四條たか子・著
宝島社



NHK 朝の連続テレビ小説「ばいばい」そのモデルとなった小泉夫妻のエピソードを、二人の写真や言葉でたどった1冊。「雪女」や「耳無芳一の話」なども特別収録し、名作怪談も一緒に楽しめる。



▶変り者たちの秘密基地 民族学博物館 ミノバクちゃん・著 CEメディアハウス

大阪の万博記念公園にある、世界最大級のコレクション数を誇る民族学と文化人類学の聖地・通称民博。博物館という名の研究所であるこの施設のクセ強研究者たちの日常に迫る。



▶がんばりやのなまけもの そめやまい・著 みらいブリング

誰よりも仕事熱心ななまけものは、ある日ベッドから起きられなくなりました。“がんばれない自分”を責めてしまう人の背中をそっと押してくれる、大人に向けた絵本。



▶小さい魔女と大きい魔女 ローズと汚れた海 岡田晴恵・作 ポプラ社

魔女たちは、自然が壊れていく現実の頭を悩ませていた。見習い魔女のローズは、汚れた海をきれいにするようと奮闘するが…。感染症の研究者でもある著者が描く、医学とファンタジーを融合させた物語。